

<b>ストレプトマイシン水和剤</b> <b>マイシン20水和剤</b>	<b>取扱メーカー：</b> サンケイ*  <b>原体メーカー：</b> Meiji
<b>成分：</b> ストレプトマイシン硫酸塩〔抗生物質〕……………25.0% (ストレプトマイシンとして……………20.0%)	<b>性状：</b> 類白色水和性粉末45μm以下  <b>毒性：</b> 普通物 <b>消除法：</b> ——

### 【品目特性】……………

- 植物体内を浸透移行する性質があり、広範囲のグラム陽性及び陰性菌に優れた殺菌力を示す。
- 各種作物の主として細菌性病害に効果を示す。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

- 連続使用によって薬剤耐性菌が出現し効果の劣った事例があるので過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用する。
- キウイフルーツの花腐細菌病に使用する場合、出蕾期～開花期までが散布適期。

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- 他剤との混用はほとんど差支えないが、強アルカリ剤との長時間混用後の使用はしない。
- ボルドー液との混用は使用直前にする。
- 不活性増量剤（珪藻土、酸性白土など）との混用は差支えないが、吸着性増量剤（タルク、ベントナイトなど）との混用はさける。

- 適用作物（はくさい、レタス、もも、うめ、なし、りんご、キウイフルーツ、ばれいしょ、キャベツ）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。  
**〈ばれいしょの種いも消毒に使用する場合〉**

- 必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理する。特に植付後の地温の上昇が遅れた場合には萌芽や生育遅延が助長されるので春先の気温が低い地域では注意する。

- 所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守する。
- 消毒した種いもは風通しのよい場所で速やかに乾燥させる。
- 種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行う。

### 【安全対策上の注意】……………

- 薬剤処理した種いもは食料又は飼料には使用しない。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用法】 .....

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを 含む農薬の総使用回数
りんご	枝枯細菌病	2000 倍	60 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
なし			75 日前まで			
もも	せん孔細菌病	1000 ～ 2000 倍	60 日前まで	2 回以内		2 回以内
すもも	黒斑病 かいよう病	1000 倍	30 日前まで			
うめ	かいよう病	1000 ～ 2000 倍	90 日前まで	4 回以内		4 回以内 (樹幹注入は 1 回以内)
キウイフルーツ	かいよう病 花腐細菌病	1000 倍				
さるなし	花腐細菌病			開花前		2 回以内
キャベツ	黒腐病	2000 倍	14 日前まで	3 回以内		3 回以内
はくさい	軟腐病	1000 ～ 2000 倍				
レタス	腐敗病	2000 倍		2 回以内		2 回以内
こんにゃく		1000 ～ 2000 倍	30 日前まで	6 回以内		6 回以内 (種いもへの処 理は 1 回以内)
たまねぎ	軟腐病	1000 倍	7 日前まで	5 回以内		5 回以内
ばれいしょ	疫病	1000 ～ 1500 倍				5 回以内 (種いもへの処 理は 1 回以内)
	軟腐病	1000 倍				
	そうか病 黒あし病	60 ～ 100 倍			植付前	
たばこ	立枯病	1000 倍	3 日前まで	2 回以内	散布又は 株元灌注	2 回以内